

平成 26 年度第 3 回 IODP 部会執行部会議事録

日時:2014 年 6 月 25 日(水)14:00~17:30

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:石渡 明(部会長・東北大学) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学) 木村純一(JAMSTEC)
斎藤実篤(JAMSTEC) 坂口有人(山口大学) 中西正男(千葉大学) 中村恭之(JAMSTEC)
道林克禎(静岡大学) 山田泰広(京都大学)

リエゾン:肥田慎司(CDEX/JAMSTEC)

オブザーバー:木下 肇(J-DESC 会長) 佐伯健太郎(文部科学省) 安間 了(筑波大学・JRFB 委員)
多田隆治(東京大学・Exp. 346 Co-chief)

事務局:梅津慶太 双木真理子(JAMSTEC)

欠席者:池原 研(産業技術総合研究所) 池原 実(高知大学) 木村 学(東京大学・CIB 議長)
鈴木庸平(東京大学) 平野直人(東北大学) 村山雅史(高知大学)
横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

議事次第(案)

1. 前回会議(140519)議事録(案)確認.....資料 1
2. IODP の動向
 - ・海域の呼称に関する問題について
 - ・掘削航海関連について(Co-chief nomination)資料 2-1,2-2
 - ・IODP Forum 報告.....資料 3
 - ・文部科学省深海掘削委員会(6/17 開催)報告.....資料 4
 - ・Chikyu IODP Board 会議について.....資料 5
 - ・ECORD Council 会議について
3. J-DESC 関連
 - ・JR 号見学会報告資料 6
 - ・IODP 部会の体制について資料 7
 - ・専門部会再編検討資料 8-1, 8-2
 - ・謝金の運用ルール検討資料 9
 - ・コアスクール講師旅費に関するルール検討
 - ・J-DESC 活動強化委員会(仮).....資料 10
 - ・IODP パンフレットの作成について資料 11
4. その他
 - ・その他報告事項など
 - ・AME & WEPAD Workshop 2014 報告.....資料 12
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

資料 1	前回会議(140519)議事録(案)	資料 7	IODP 部会規則
資料 2-1	乗船研究者リスト	資料 8-1	IODP 部会専門部会体制
資料 2-2	Co-chief nomination について	資料 8-2	各専門部会規則
資料 3	IODP Forum draft minutes v. 2	資料 9	謝金支払制度の運用について(案)
資料 4	第 14 回深海掘削委員会議事次第・委員名簿	資料 10	J-DESC 活動強化委員会(案)
資料 5	Chikyu IODP Board #2 meeting (10-11 July) draft agenda	資料 11	IODP 日本語パンフレット作成見積書
資料 6	JR 号見学会報告	資料 12	西太平洋掘削ワーキンググループ (WEPAD)の活動について

議事録

1. 前回会議(140519)議事録(案)確認.....資料1
会議終了までに修正点等はなく、議事録(案)は承認された。

2. IODP の動向

・海域の呼称に関する問題について

はじめに石渡部会長から経緯の説明がなされた。

- ・今年の2月にリリースされた Exp. 346 の Preliminary Report で、Japan Sea/East Sea との表記がすべての場所で使われており、これについて外務省から、日本としては併記は認めていないとの指摘があった。
- ・アメリカの大統領府の公式見解でもあの海域の名称は日本海であることを確認している。
- ・J-DESCとしても文部科学省と協議したうえで、IODP のウェブページに掲載されている Exp. 346 の Scientific Prospectus では日本海が単記されており、同じウェブページ内で海域表記にブレがあることはおかしいのではないかということアメリカ側(Ocean Leadership)にレターを送った。現在、Preliminary Report は Pending 状態になっている。

Exp. 346 Co-chief の多田氏から具体的な経緯についてがあった。

合意事項(140625-01) : 今後この問題の推移を注意深く見守りながら J-DESC としてできる限りの対応・サポートをする。

・掘削航海関連について (Co-chief nomination)資料 2-1,2-2

事務局より資料 2-1, 2-2 に基づき報告がなされた。

- ・現在 Exp. 351 が実施中で、4 名が乗船している。この他、Exp. 354 Bengal Fan まで乗船者が決定しており、すべての航海で 4 名ずつとなっている。
- ・現在、SEP がアメリカで行われているが、Exp. 359~363 の 5 航海について Co-chief nomination が行われる。

合意事項(140625-02) : Exp. 360 Indian Ridge Moho, Exp. 362 Sumatra Seismogenic Zone, Exp. 363 Western Pacific Warm Pool の Co-chief としてそれぞれ 3 名の研究者を推薦する。

また、事務局より出張の報告書に関する問題の報告がなされた。

- ・ある航海の乗船研究者にプレクルーズトレーニングの報告書の提出を約半年にわたって 9 回もリマインドしているにもかかわらず、まだ提出していない。
- ・当該の研究者は複数回乗船しており、以前の乗船の際も問題があり執行部にも報告している。
- ・事務局としては、ルール違反が続くと今後乗船応募があった際に何らかの対応を取らざるを得ないと考えている。
- ・西部会長補佐より当該研究者の上司に報告書を提出するよう勧告することで対応することになった。
※執行部会終了後、この対応を取る前にすぐに報告書が提出された。

・IODP Forum 報告資料 3

石渡部会長より報告がなされた。

- ・5/27~28 に釜山にて開催された。
- ・IODP Forum は New Science Plan の番人として、掘削計画やプロポーザルのモニタリングを行うことが一つの役割となっている。
- ・日本海呼称問題については会議の議題には上がっていない。
- ・1 日目は報告。2 日目は検討事項に関する議論が行われた。
- ・特筆すべきこととしては、ICDP との連携を強めるべく、IODP と ICDP がコラボしたプロポーザルの提案を推奨すると共に、AGU でのタウンホールミーティングを共同開催することを合意したこと。石渡部会長の提案により、IODP Forum として IODP-MI の解散に尽力した IODP-MI の社長とスタッフを評価し、IODP-MI の遺産の寄付に基づく AGU 海洋掘削若手賞の新設を歓迎することなどをコンセンサスとしてまとめた。
- ・次回は 2015 年 7 月 8 日~10 日の 3 日間、キャンベラにて開催予定。

・文部科学省深海掘削委員会(6/17開催)報告資料4

石渡部会長から報告がなされた

- ・6月17日に文部科学省科学技術・学術審議会海洋開発分科会に設置されている深海掘削委員会が開催された。
- ・この会議では、JAMSTECの南海掘削のこれまでの成果と今後の計画の説明を受け、その方針がよいかどうかを判断することが主な議題であった。
- ・ライザー掘削で分岐断層を貫く計画をどのように進めるかの案が示され、どの案にするということを決めたわけではないが、とにかく技術的・経済的に可能な計画を進めようという結論となった。

・Chikyu IODP Board 会議について資料5

肥田氏より資料5に基づき説明がなされた。

- ・今年度と来年度の南海掘削をどう進めるかについて検討する(Chikyu Budgetary Overview)
- ・この先3~5年のスパンで何が出来るかに関する確認を行う(Long-term Implementation Plan)。Post 南海掘削のプロジェクトとしてIBMとCRISPがあり、新たにヒ克蘭ギ(場合によってはJTRACK)が議場に上がってくる可能性がある。
- ・PCT Activitiesで次のポスト南海のプロジェクトの準備状況について報告がなされるが、ポスト南海を決めるという段階ではない。

・ECORD Council 会議について

事務局より説明がなされた。

- ・10月9日、10日にスイスのチューリッヒにてECORD Council 会議が開催される。
- ・これまでJ-DESCからは出席していなかったが、このたび送られてきた出席者リストに石渡部会長の名前がJ-DESCからのリエゾンとして記載されていた。
- ・石渡部会長は都合が悪く出席できないため、ECORD Council 会議が重要と位置付けるならば代理出席者を選出する必要がある。
- ・J-DESCには主に教育・普及活動に関するレポートが求められている。

西部会長補佐よりコメントがあった。

- ・次回以降のECORD Facility Boardには日本からもメンバーを出すことになる。J-DESCとしてはヨーロッパ内でもプレゼンスを示す必要があり、この会議に行ってもらうのは重要だろう。
- ・以前、第1回ECORD Facility Board 会議にオブザーバー出席してもらったという経緯もあることから山田氏の出席がふさわしいのではないかと。

合意事項(140625-03):J-DESCの代表として、執行部から山田泰広氏が出席する。

3. J-DESC 関連

・JR 号見学会報告資料6

事務局より、資料6に基づき報告がなされた。

- ・5月31日に横浜港本牧ふ頭にてJR号の特別公開を実施した。
- ・午前メディア向け、午後はJ-DESCで募集した研究者・学生等向けで、メディア6社(うちビデオカメラ3台)、J-DESC募集枠51名が参加した。
- ・岸壁での安全確保のため、前回の執行部会での承認によりJ-DESCとしてバスをチャーターし対応した。
- ・当日いくつかの新聞およびテレビにおいてJR号やIBM掘削の紹介がなされ、非常に良いPRになった。
- ・午後の参加者のうち1名(大学院生)が体調不良を訴えたため、JAMSTEC横浜研究所の医務室にて安静を取った。しばらくして回復したため、バスに乗り込み、現地にてJR号の外観のみ見学を行った。その後特に何も連絡はなく、無事に過ごしていることと思われる。

・IODP 部会の体制について資料7

石渡部会長より説明がなされた。

- ・9月より原子力規制委員会の委員に就任することとなった。兼職は認められていないため、IODP部会長を辞職せざるを得ない。

事務局より資料 7 に基づき、規則等の確認がなされた。

- ・IODP 部会規則第 5 条(部会長補佐)第 3 項には、部会長補佐は、部会長の業務を補佐し、部会長に事故のある場合及び部会長の要請があり執行部が認める場合には、その職務を代行する。とある。今回の場合は、部会長からの要請ということで、執行部が承認したうえで今後の職務を部会長補佐に代行していただくという手続きが考えられる。
- ・一方で、9 月までには部会長を解職する必要がある、IODP 部会規則第 4 条(部会役員)部会役員は、部会からの推薦に基づき、理事会で選任・解任し、会員総会で承認される。とあるため、このような手続きとなる。部会長を新たに選出する場合も同じ手順で承認を取ることになる。
- ・部会長補佐の代行で進める場合は、部会長は空席となる。

合意事項(140625-04):部会規則第 5 条に則り、部会長解任の後、任期満了まで部会長補佐が部会長の職務を代行する。

・専門部会再編検討 資料 8-1, 8-2

資料 8-1, 8-2 に基づき、事務局より説明がなされた。

- ・新しい枠組みになり、パネルが減少しさらに派遣する委員も減少した。
- ・これまではパネルに対応した形で専門部会を立ち上げてサポートしてきたが、今後もそのような形で専門部会を維持するかどうかを検討していただきたい。

合意事項(140625-05):専門部会は必要であり、現在の専門部会を今すぐにつぶす必要はない。どういう役割にするかということについては、今までとは別の役割・道筋をがあるべきである。具体的には、プロポーネントやパネル委員、ファシリティーボード委員をサポートする組織にしていかなければならない。会則で現状に合わない部分については改訂して基本的に存続させる方向で検討を進める。

実行項目(140625-06):専門部会会則の改訂案を作成し、次回執行部会にて具体的な検討を行う。

・謝金の運用ルール検討 資料 9

事務局より資料 9 に基づき説明がなされた。

- ・今年度新規予算科目として謝金を設けたので、運用ルールを検討しなければならない。
- ・総務省等、役所で運用されているルールを参考に資料を作成した。

合意事項(140625-07):謝金運用ルール事務局案を承認する。

・コアスクール講師旅費に関するルール検討

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・コアスクール微化石コースの講師について、メール審議の結果、韓国からの朝日氏の旅費を J-DESC で負担することが賛成多数で承認された。
- ・一方で、外国から講師を呼ぶ場合のルールを検討する必要があるとの意見がある。
- ・総会でコアスクールの講師旅費は全額 J-DESC で負担すべきとの意見があった。

合意事項(140625-08):コアスクールの講師招聘はケースバイケースでその都度執行部で判断することとする。

・J-DESC 活動強化委員会(仮) 資料 10

事務局より資料 10 に基づき標記の件について説明がなされた。

- ・将来検討委員会の提言に基づき、前回の執行部会において活動強化委員会(仮)の設置が合意された。
- ・活動強化委員会の目的は、掘削科学研究者の人材育成及びサイエンティフィックな面の強化とボトムアップの方策を、IODP 関連及び陸上掘削関連で横断的に検討し、実施することである。
- ・最も重要なポイントは「実施する」という部分であり、検討するだけでなく実施するという実務部隊であるということ。

合意事項(140625-09):年 4 回程度で任期は次年度総会までとし、活動強化委員会を設置する。

・IODPパンフレットの作成について.....資料 11

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・IODPの日本語版パンフレットがなく、CDEXも作成していない。
- ・今年度の広報活動費は共通経費として200万円積んでいる。

合意事項(140625-10) : IODPパンフレットの作成を進め、作成費は広報活動費から支出する。

4. その他

・AME & WEPAD Workshop 2014 報告資料 12

事務局より資料 12 に基づき説明がなされた。

- ・これまで日韓で進めてきた共同プロポーザル作成の枠組みを拡大し、西太平洋地域を念頭に置いた多国間ワーキンググループがこのたび始動した。
- ・日韓共同プロポーザルは777-APLとして提出がなされ、スケジューリングを待っている段階であり、一定の成果を上げている。
- ・今後も活発に活動を続けるため、J-DESCにも協力が求められる可能性がある。

・JpGU 関連

道林氏より報告がなされた。

- ・固体地球セクションボードで地球内部科学フォーカスグループが動いているが、掘削関係で立ち上げてほしいという要請があり、マントル掘削に関するフォーカスグループを立ち上げる予定。セクションボードメンバーの増員を検討中であり、掘削科学からも協力してほしい。

・各種賞に関して

- ・JpGU フェローにJ-DESCから見て漏れがないように推薦することも考える必要がある。
- ・今後、JpGUの若手賞(西田賞)やAGUの海洋掘削若手賞(平賞)の推薦についても検討していく必要がある。

・次回執行部会開催日程確認

7月22日(火)